

柳町土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

徳丸ジョウジャダ遺跡

2015

石川県野々市市教育委員会

例　　言

- 1 本書は、徳丸ジョウジャダ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は、石川県野々市市柳町地内である。
- 3 調査原因は、野々市市柳町土地区画整理事業にともなうものである。
- 4 調査は、野々市市柳町土地区画整理組合設立準備委員会（当時、現柳町土地区画整理組合）からの依頼を受けて野々市市教育委員会が実施した。
- 5 調査にかかる費用は、柳町土地区画整理組合と野々市市が負担した。
- 6 現地調査の年度・期間・面積・担当者は以下のとおりである。
 - ・期　間 平成 26 年 7 月 14 日～平成 26 年 8 月 12 日
 - ・面　積 298m²
 - ・担当者 田村 昌宏（野々市市教育委員会文化振興課 課長補佐）、多間 聖（同 主事）
- 7 出土品整理及び報告書の刊行は平成 26 年度に野々市市教育委員会が実施した。担当及び執筆編集は多間が行った。
- 8 出土品写真撮影は多間が行った。
- 9 本書についての凡例は以下のとおりである。
 - (1) 方位は座標北を指し、座標は国土交通省告示の平面直角座標第Ⅶ系に準拠している。
 - (2) 水平基準は海拔高であり、T. P.（東京湾平均海面標高）による。
 - (3) 出土遺物番号は、本文・観察表・挿図・写真に対応する。
 - (4) 挿図の縮尺は図に示すとおりである。また、写真図版における遺物の縮尺は統一していない。
 - (5) 土層図の注記は、農林水産省農林水産技術会事務局・財團法人 日本色彩研究所監修「新版標準土色帖」に拠った。
 - (6) 遺構名称の略号は以下のとおりである。
溝：SD　　縦穴状遺構：SI　　土坑：SK　　小穴：P　　性格不明遺構：SX
 - (7) 便宜上、調査区を 7 等分し、それぞれに a～g の名称を与えている。
- 10 調査に関する記録と出土遺物は、野々市市教育委員会が一括して保管・管理している。



第1図 柳町地区試掘範囲・発掘調査範囲

第1章 経緯と経過

本書収録の徳丸ジョウジャダ遺跡が所在する柳町地区は、周辺地域の都市化に伴い、土地区画整理事業が施行されることとなった地区である。柳町地区は詳細な遺跡の分布が判明していない地城であったため、区画整理事業に先立ち、試掘調査による遺跡の確認調査を行う必要があった。

平成 24 年 11 月 30 日付で野々市市産業建設部長から野々市市教育委員会教育長宛に土地区画整理事業施行予定区域内の埋蔵文化財の分布調査についての依頼が提出されたことを受け、同日付で同区域 765,000 m²について分布調査を行う旨的回答をした。

試掘調査は柳町地区の 765,000 m²において、平成 24 年 11 月 22 日及び平成 25 年 10 月 1・2 日の 2 ヶ年に分けて行われ、大別して、以下の 4 点の知見が得られた。

1 平成 24 年度の試掘調査において、店舗建設用地となる約 32,600 m² (第1図) について 11 か所の試掘地点を設けたが遺構・遺物等は確認されなかった。2 平成 25 年度の試掘調査では、合計 16 か所の試掘地点を設けたが、第1図 A の範囲においては遺跡の分布は見られなかった。3 平成 25 年度試掘調査 B エリアには徳丸ジョウジャダ遺跡があり、その周知範囲内において設定したトレーニングにおいて、石川県埋蔵文化財センターが行った金沢外環状道路海側幹線工事に伴う発掘調査で確認された溝状遺構の延長部分である溝状遺構が発見された。4 徳丸ジョウジャダ遺跡周知範囲内において、先述した溝状遺構が確認されたトレーニング以南については遺構・遺物は見られなかった。

以上 4 点に、過去に行われていた当該地区的試掘調査を加味した結果について、第1回試掘分を平成 24 年 12 月 6 日付、第2回試掘分を平成 25 年度 10 月 3 日付で野々市市産業建設部長宛に報告し、試掘調査を終了した。

野々市市教育委員会(以下、市教委)は野々市市柳町土地区画整理組合設立準備委員会(以下、準備委員会)、野々市市都市計画課および株式会社日本海コンサルタントと協議し、分布調査の結果(上記3 及び4)による、「溝状遺構を検出したトレーニング以北について計画されている開発行為(調整池・区画道路建設)を行う際には発掘調査が必要である」との方針について合意を得た。

市教委は準備委員会より平成 26 年 5 月 19 日付で提出された野々市市柳町土地区画整理事業施行区域内における埋蔵文化財の調査についての依頼を受け、同年 5 月 28 日付で発掘調査を行う旨の回答を行った。

また、市教委は平成 26 年 6 月 23 日付で、同日準備委員会より受理した、文化財保護法第 93 条に基づく土木工事等のための発掘届を石川県教育委員会に進呈、また、文化財保護法第 99 条に基づく発掘調査報告を行った。そして、同日付で石川県教育委員会教育長より発掘調査を行う旨の通知がなされた。

上記の通知を受けて、平成 26 年 6 月 23 日付で、市教委と準備委員会との間で徳丸ジョウジャダ遺跡発掘調査に係る委託契約を締結した。

以上の手続きを終えて、7 月 8 日より徳丸ジョウジャダ遺跡の発掘調査が開始された。

現地調査は 7 月 8 日より大型重機による表土掘削を開始し、7 月 15 日より人力による遺跡掘削を開始した。現地調査は 8 月 12 日をもって終了し、12 月 2 日より出土遺物の整理作業を開始した。遺物の洗浄・実測・写真撮影を経て、発掘調査報告書の刊行に至った。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

野々市市は石川県のほぼ中央、石川平野の要地に位置する。市の大きさは南北約 6.7 km、東西約 4.5 km で、県内で最も面積の小さい自治体である。市域は靈峰白山を源とする県下第一級河川手取川によって形成された手取川扇状地の北東部にあたり、扇央部と扇端部の狭間に位置する。本市で最も高い標高地は市北部で 50m、最も低い地点は市南部で 10m と、なだらかな緩斜面となる地勢を見せている。



第2図 野々市市位置図

第2節 歴史的環境

本節では、徳丸ジョウジャダ遺跡の周辺に分布する遺跡について時代別に概観する。

・縄文時代

本遺跡より北東約2.5kmには、国指定史跡となっている御経塚遺跡が所在する。その近隣には縄文時代後期後半～晩期後半のチカモリ遺跡や縄文時代後期後半～晩期後半の中屋サワ遺跡といった集落遺跡が点在している。また、本遺跡より南東約1.0kmには縄文時代晩期の7長竹遺跡が所在している。

・弥生時代

本遺跡より南東約0.5kmに所在する3乾遺跡からは、柴山出村式と呼ばれる弥生時代前期の土器が確認されている。

弥生時代後期では、本遺跡のほか、野々市市北西部付近に所在する二日市イシバチ遺跡・郷クボタ遺跡、三日市ヒガシタンボ遺跡などから竪穴建物や掘立柱建物などで構成される集落跡が見つかっている。

・古墳時代

古墳時代前半については、本遺跡より北東約1.8kmに所在する二日市イシバチ遺跡において弥生時代後期からの流れを汲む集落跡を確認することができる。一辺約18mの規模を中心とした大小の方墳7基を確認しており、首長層の存在を伺い知ることができる。

・古代

野々市市南部では県内最古の古代寺院である末松庵寺が建立される。この寺院の建立以降、市内南部地域を含む手取川扇状地扇央部といった耕作地開発が急速に進んでいく。

・中世

11世紀後半～12世紀ごろから、在地領主層の武士団の形成がはかられるようになる。野々市市内において中世の遺跡が多く認められるようになるのは、富樫氏が加賀国の守護職に任じられ、野々市に守護所を置く14世紀ごろからである。先に挙げた二日市イシバチ遺跡や郷クボタ遺跡、中屋サワ遺跡では、溝に囲まれた中に建物などが配置される散居村のような景観が広がる集落が認められる。

15世紀以降になると、本遺跡より北東約1.0kmに所在する集落跡である徳用クヤダ遺跡などで、掘立柱建物・竪穴状造構などの主要造構が密集した村落形態が示されるようになる。これは14世紀ごろまでみられた散村から集村へと移行する様相をみせている。

・近世

乾遺跡などで、当該時期の墓地跡が確認されている。



第3図 遺跡の位置及び周囲の遺跡

No	遺跡名	時代
1	徳丸ジョウジャダ遺跡	弥生～近世
2	乾町三月田遺跡	古墳・古代
3	乾遺跡	縄文～近世
4	専福寺遺跡	中世
5	田中ノダ遺跡	弥生・古墳
6	中奥・長竹遺跡	縄文～中世
7	長竹遺跡	縄文～古墳・中世
8	高田遺跡	縄文
9	橋爪遺跡	縄文・弥生・中世・近世

第1表 周囲の遺跡

第3章 調査の成果

第1節 調査区について

報告にあたり、調査区を第8図のとおり分割したうえで、便宜的に a ~ g の名称を与えた。

また、本報告における調査区は、平成 18 年～19 年にかけて石川県埋蔵文化財センターが実施した発掘調査における調査区 2 区の西隣に位置している。本文中で県の調査成果を記すときは、その旨の断りを入れるものとする。なお、県の発掘報告は『徳丸ジョウジャダ遺跡』2010 にまとめられている。

第2節 遺構

・ SI 1・SK 1 (第4・5図)

調査区 e に位置し、後述する SD 1・3・4 に囲まれている。SI 1 が SK 1 を切っている。遺構の規模は、SI 1 については計測可能な範囲において、南北 2.6m、東西 3.8m を測り、深さは 0.2m である。SK 1 については計測可能な範囲において、南北 2.5m、東西 2.6m を測り、深さは 0.2m である。県報告における堅穴建物 2 の西側部分に該当する。

・ SI 2 (第6・7図)

調査区 d ~ e に位置し、後述する SX 1 により切られる形になっている。遺構の規模は、計測可能な範囲において南北 5.3m、を測り、深さは 0.5m である。

・ SD 1 (第4・5図)

調査区 e・g に位置する。遺構の規模は、長さでは調査区南東端から SX 1 との合流地点までが 18.2m、幅が 0.3m、深さは地点によって異なるが概ね 0.4 ~ 0.5m、深いところでは 0.6m を測る。後述する SD 3・4・5 と合わせて、区画割のために掘られた溝と見られる。

・ SD 2 (第4・5図)

調査区 g に位置し、遺構の規模は計測可能な範囲で長さ約 6m、幅 0.9m、深さ 0.5m である。東側に関して調査区外へと延びているため全長は不明であり、県調査の範囲においても該当する溝は見られない。

・ SD 3・SD 4 (第4・5図)

調査区 e に位置する。両者とも、SD 1 に直交する形で合流しており、SD 5 の東西ラインと合わせて区画割の役割を担っているものと見られる。遺構の規模は、本調査区の範囲の中では SD 3 について長さ 4.5m、幅 0.4m、深さ 0.4m であり、SD 4 については長さ 3.4m、幅 5.5m、深さ 0.6m を測る。SD 3・4 とともに県調査において見つかった溝との合致を見せ、SD 3 は県報告の溝 8、SD 4 は県報告の溝 22 にそれぞれ該当し、それを加味した溝の全長は SD 3 がおよそ 10m、SD 4 はおよそ 16m となる。SD 3 の全長に関しては東側について、県報告の溝 7 に切られているため確認できる範囲の数値である。また、SD 3 の底面において鍬痕を確認した。

・ SD 5 (第7図)

調査区 c に位置し L 字形を呈する。遺構の規模は、本調査区の範囲の中では長さ 2.5m、幅 0.5m、深さ 0.6m である。県調査で確認された溝 9 と合致し、それを加味した溝の全長は東西におよそ 19m である。なお、県調査において、SD 5 より北に 10m の位置に、SD 3・4・5 と同様東西に走る溝 17 が検出されている。

・ SX 1 (第6・7図)

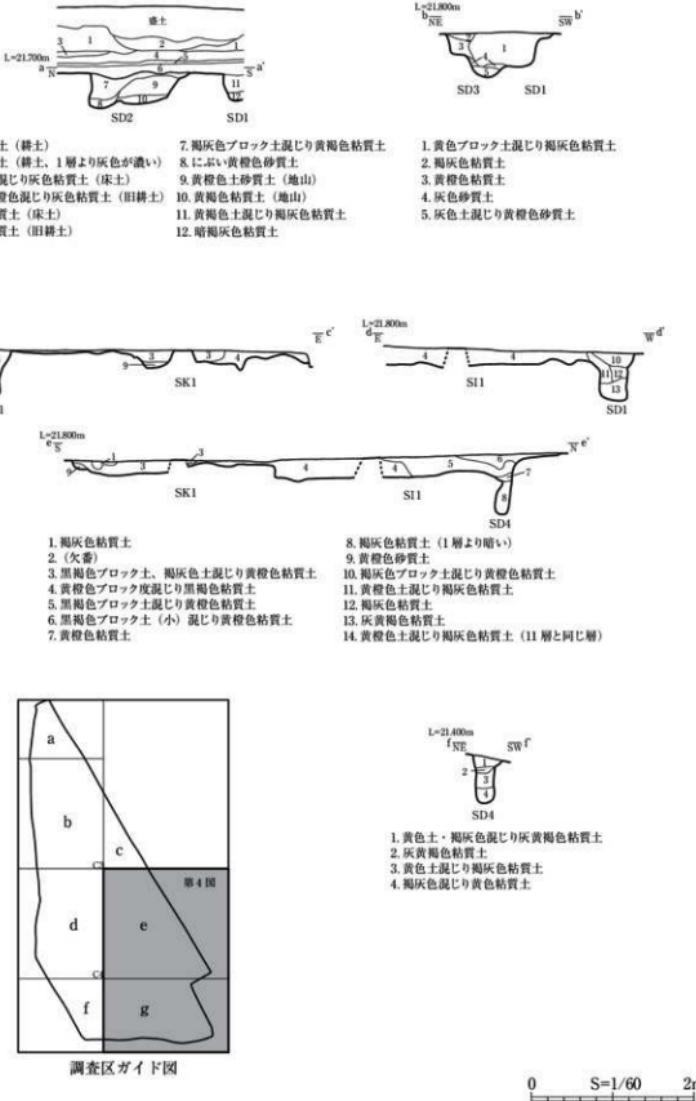
調査区 d ~ e に位置する。SD 1・4 が当該遺構への合流を見せており。遺構の規模は、計測可能な範囲において、東西 6.4m、南北 2.1m を測る。深さに関してはおおよそ 0.6~0.8m である。

・ SX 2 (第7図)

調査区 b ~ c に位置する。遺構の規模は、計測可能な範囲において、東西 1.6m、南北 6.8m を測る。深さに関しては最深部でおおよそ 0.8m である。



第4図 SD 1 ~ 4・SI 1・SK 1 造構図 (S=1/60)



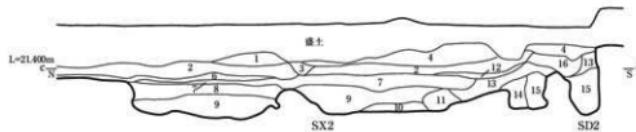
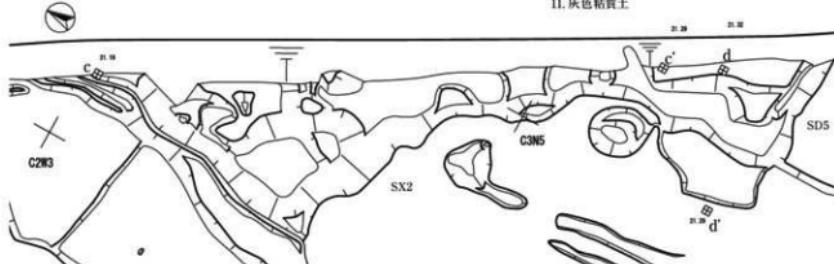
第5図 SD 1 ~ 4・SI 1・SK 1 土層断面図 1 (S=1/60)



第6図 SI 2 · SX 1 遺構図 ($S=1/60$)



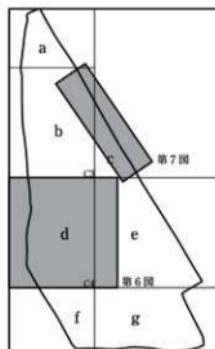
- L=21,700m
N S'
- SI2
- W b'
- SX1
1. 黄褐色混じり黒褐色粘質土
 2. 黒褐色粘質土
 3. 灰白色砂質土
 4. 黄褐色混じり褐灰色粘質土
 5. 褐灰色混じり黄褐色粘質土
 6. 黄褐色混じり灰白色粘質土 (SX23)
 7. 黑褐色 - 黄褐色混じり褐灰色粘質土 (SX23)
 8. 黄褐色混じり褐灰色粘質土 (4層より褐灰色が暗い)
 9. 黄褐色混じり灰白色粘質土
 10. 褐灰色混じりにぶい黄褐色砂質土
 11. 灰色粘質土



1. 灰色土混じり黄色粘質土
2. 黄褐色混じり灰白色粘質土 (旧純土)
3. 暗灰色粘質土
4. 褐灰色混じり黄褐色粘質土
5. bl
6. 灰色混じり明黄褐色粘質土 (床土)
7. 黄褐色混じり褐灰色粘質土
8. 灰黃褐色粘質土
9. 褐褐色混じり灰黃褐色粘質土
10. 黄褐色ブロック土混じり褐灰色粘質土
11. 褐灰色粘質土
12. 灰色粘質土 (灰白色砂土マーブル状に混じる)
13. 黄褐色混じり褐灰色粘質土
14. 黄褐色ブロック土混じり褐灰色粘質土
15. 黄褐色ブロック土混じり褐灰色粘質土 (14層よりブロック土多い)
16. 黄褐色 - 喀褐色混じり褐灰色粘質土



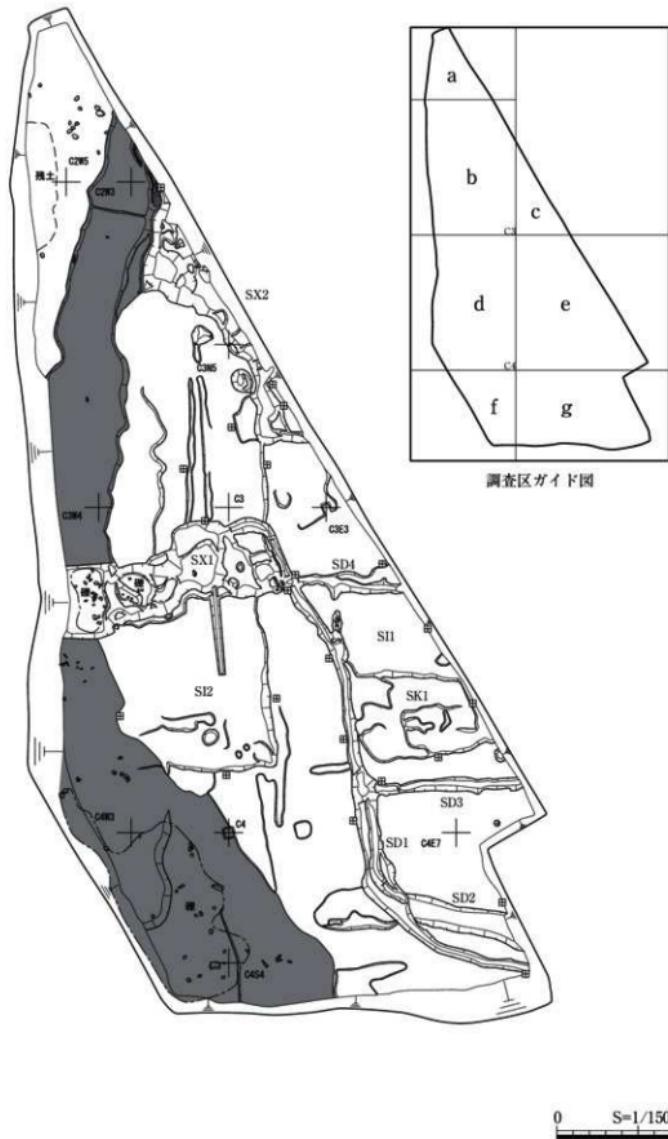
1. 黄褐色砂質土
2. 褐灰色混じり灰黃褐色粘質土
3. 灰褐色 - 黄褐色混じり灰黃褐色粘質土



調査区ガイド図

0 S=1/60 2m

第7図 SI2・SX1 土層断面図、SX2 造構図・土層断面図 (S=1/60)



第8図 遺構平面図 (S=1/150)

第3節 遺物

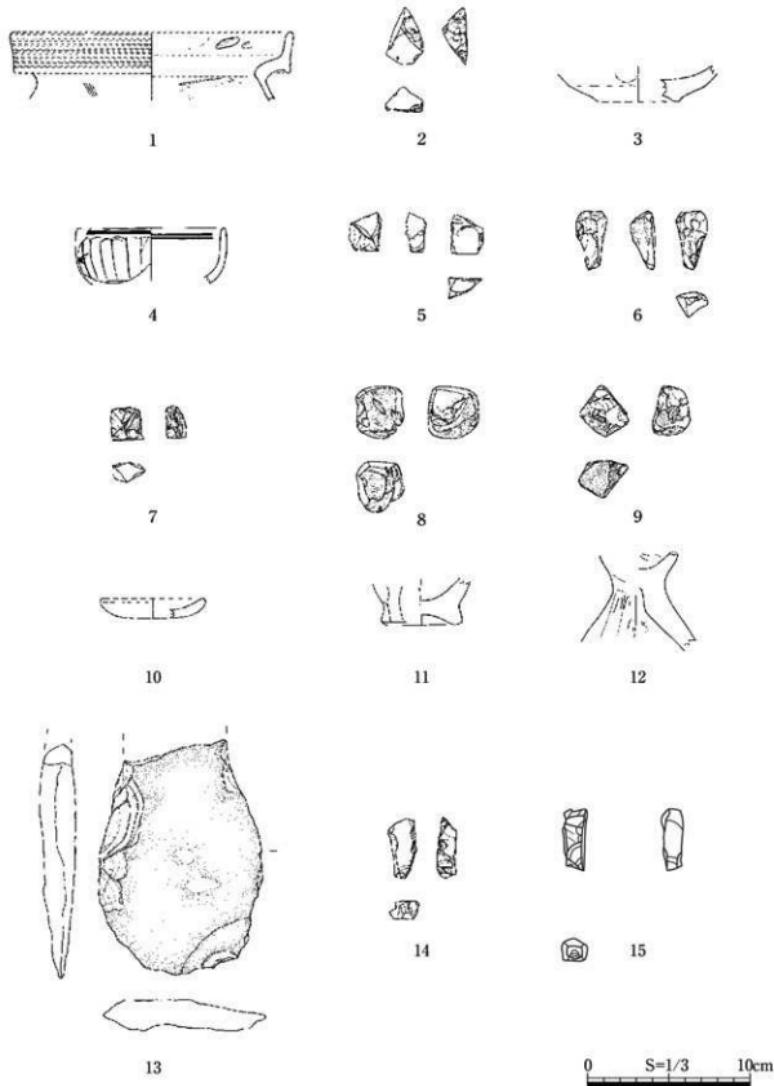
実測図を掲載した遺物の報告について、この節で説明する。

1は甕であり、口径は推定 174mm、頸部は 141mm を測る。口頸部の調整として、外面はナデ・擬凹線、内面はナデ、指頭圧痕が観察される。体部の調整として、外面はハケ、内面はケズリが観察される。色調は、外面はにぶい黄橙色、内面は灰白色である。胎土には、砂礫を含有する。残存率は口縁部 1/21、頸部 1/7 である。SI 1 で出土した。2は管玉の未成品である。石質は緑色凝灰岩で、長さ 35mm、幅 23mm、厚さ 15mm で、重さは 8.0g である。SI 1 で出土した。3は唐津焼の碗で、底径 50mm を測る。色調はにぶい橙色で、内面に灰オーリーブ色の銅綠釉がかかっている。胎土は鈍い黄橙色である。SD 5 で出土した。4は染付の椀で、口径は 92mm を測る。色調は灰白色で、内外にゴス絵付に白釉がかかっている。残存率は 1/6 である。SD 5 で出土した。5は管玉の未成品である。石質は緑色凝灰岩で、長さ 24mm、幅 20mm、厚さ 13mm で、重さは 5.4g である。SD 3 で出土した。6は管玉の未成品である。石質は緑色凝灰岩で、長さ 36mm、幅 19mm、厚さ 15mm で、重さは 7.3g である。SD 1 で出土した。7は管玉の未成品である。石質は緑色凝灰岩で、長さ 20mm、幅 20mm、厚さ 13mm で、重さは 5.4g である。SD 1 で出土した。8は軽石の砾石である。長さ 32mm、幅 29mm、厚さ 31mm で、重さは 6.3g である。SK 1 で出土した。実測図においてトーンで表現した部分がすり面である。9は管玉の未成品である。石質は緑色凝灰岩で、長さ 31mm、幅 30mm、厚さ 23mm で、重さは 14.9g である。SK 1 で出土した。10は土師器の皿であり、口径 64mm、器高 12mm、底径 35mm を測る。調整痕として、内外面にナデが観察される。色調は浅黄橙色で砂礫を含有する。残存率は口縁部で 1/6 である。内面にススが付着している。SX 1 で出土した。11は甕の底部であり、底径 48mm を測る。底部の調整として、内外面にナデが観察される。色調は浅黄橙色で砂礫を含有する。残存率は底部 2/3 である。SX 1 で出土した。12は高杯であり、頸部の径 32mm を測る。体部の調整として、内外面にミガキ・ナデが観察される。色調はにぶい橙色で砂礫・赤色粒を含有する。残存率は柱状部が 2/3 である。SX 1 で出土した。13は打製石斧であり、長さは推定 144mm、幅 101mm、厚さ 23mm を測り、重さは 315g である。石質は火山礫凝灰岩であり、SX 1 で出土した。14は管玉の未成品である。石質は緑色凝灰岩で、長さ 37mm、幅 18mm、厚さ 12mm で、重さは 6.7g である。15は管玉の未成品である。石質は緑色凝灰岩で、長さ 13mm、幅 5mm、厚さ 5mm で、重さは 0.3g である。

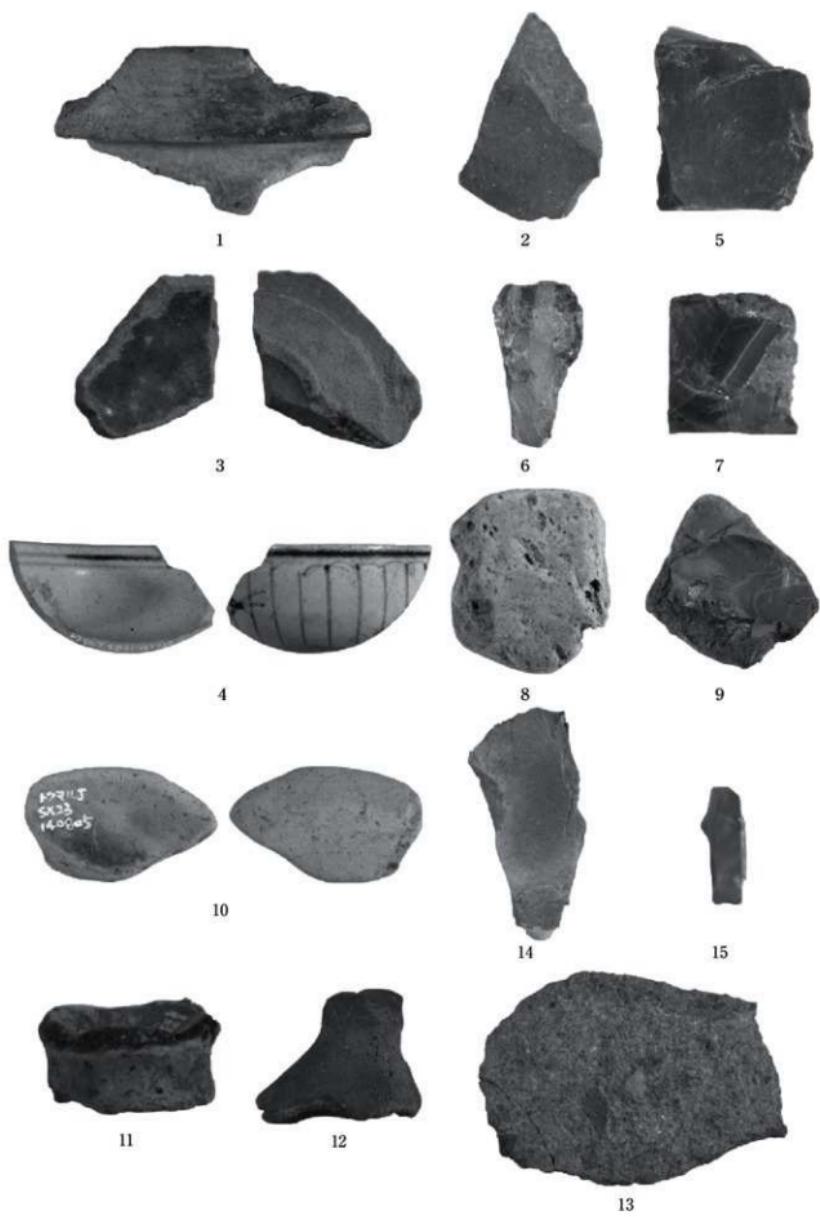
第4節 総括

今回の調査において確認できた事項を記していく。

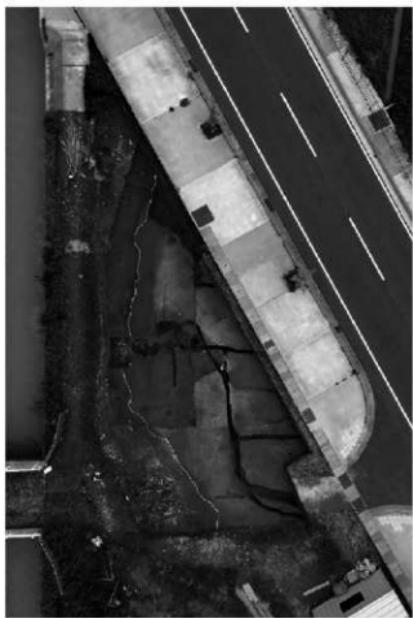
- SI 1 および SK 1 は弥生時代後期の遺構と考えられる。当該遺構周辺には玉製品製作途中の緑色凝灰岩が散見され、玉を磨くために使用されたと思われる軽石も発見された。この 2 遺構については県調査における堅穴建物 2 と同一のものである。また、県調査における堅穴建物 1 も同時代の遺構であり、玉製品製作において中心的な役割を担っていたと思われる。
- SD 1・3・4・5 といった溝は、耕作地を区画し、また用排水に使用するために中世に掘られた溝と考えられる。SD 3～5 については調査区外東側へと伸びていき、県調査において検出された溝との一致をみせた。SD 4 と SD 5 に挟まれている部分の面積は約 75m²となっている。



第9図 遺物実測図 (S=1/3, 15のみ S=1/1)



遺物写真図版



調査区全景



調査区南側から

遺構写真図版 1



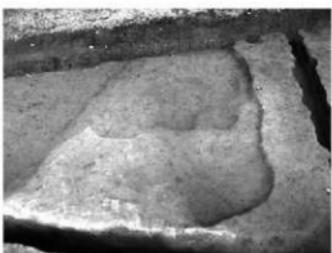
SX2



調査区北側より



SI1



SX1



SD1周辺



SX1



SI2



作業風景

報告書抄録

ふりがな	とくまるじょうじゃだいせき						
書名	徳丸ジョウジャダ遺跡						
副書名	柳町土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	田村 昌宏 多間 聖						
編集機関	野々市市教育委員会						
所在地	〒921-8510 石川県野々市市三納一丁目1番地 Tel: 076-227-6122						
発行機関	野々市市教育委員会						
発行年月日	西暦 2015年3月28日						
所収遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
	市町村	遺跡番号					
トケマル 徳丸 ジョウジャダ 遺跡	石川県 野々市市 柳町	17344	36° 31' 38"	136° 34' 51"	2014.7.14 2014.8.12	298	記録 保存 調査
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
	集落	古代、中世	竪穴建物 土坑溝		土器、陶磁器、 緑色凝灰岩		
要約	本調査区は、過年度に(公財)石川県埋蔵文化財センターが発掘調査した西側に位置する。調査では、弥生時代の遺構として竪穴建物を検出した。竪穴建物からは緑色凝灰岩製の管玉未成品が出土した。中世の遺構では竪穴状遺構1棟と、耕作地の区画及び用排水に供するための溝を確認した。						

2015年3月28日 発行

柳町土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

徳丸ジョウジャダ遺跡

著作権所有 石川県野々市市三納一丁目1番地

発行者 野々市市教育委員会

印刷者 石川県野々市市矢作三丁目18

高桑美術印刷株式会社